

コーポレートアートエイド京都
(CORPORATE ART AID KYOTO)
展覧会作品



NO.01

hug

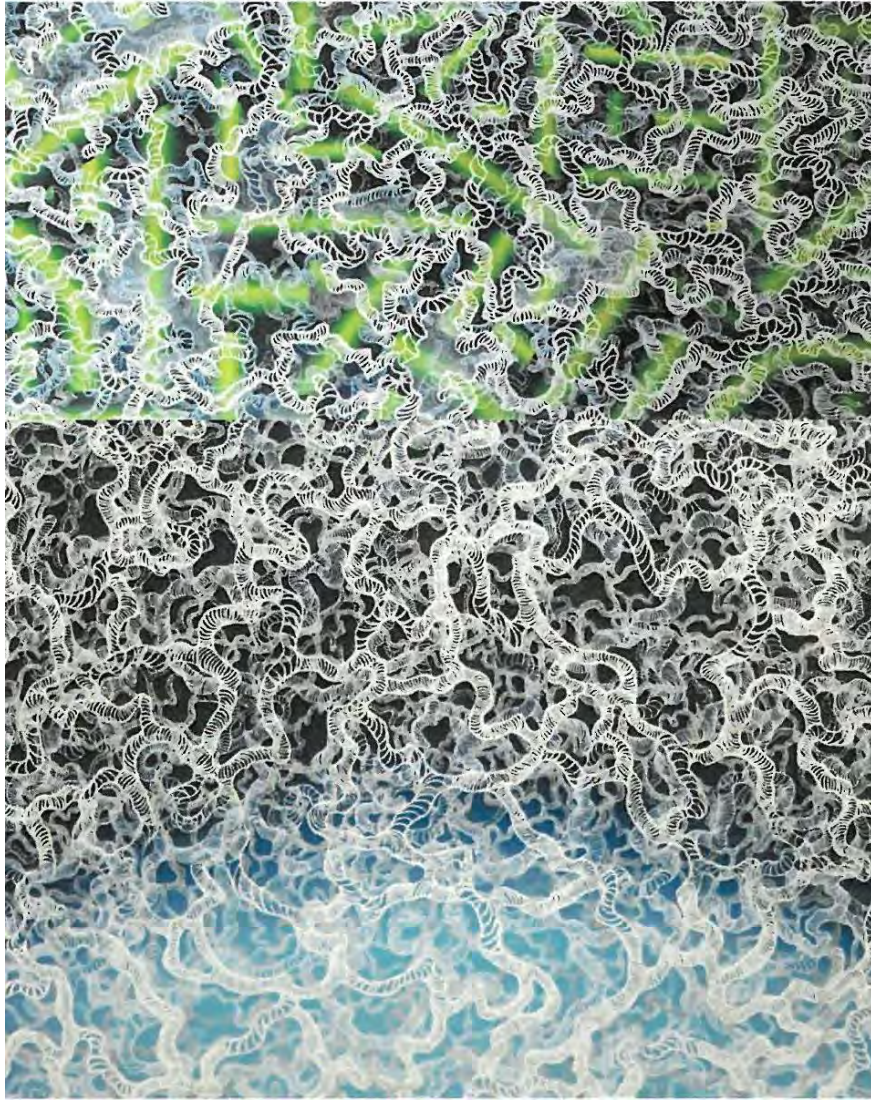
TOMOMI

現代なりの悩みを抱えた自分を抱きながらも、
折り合いをつけて生きていく。

キャンバス、油彩

1940×2590mm

NO.02



Collision of dimensions
(in brain signals)

植田 爽介

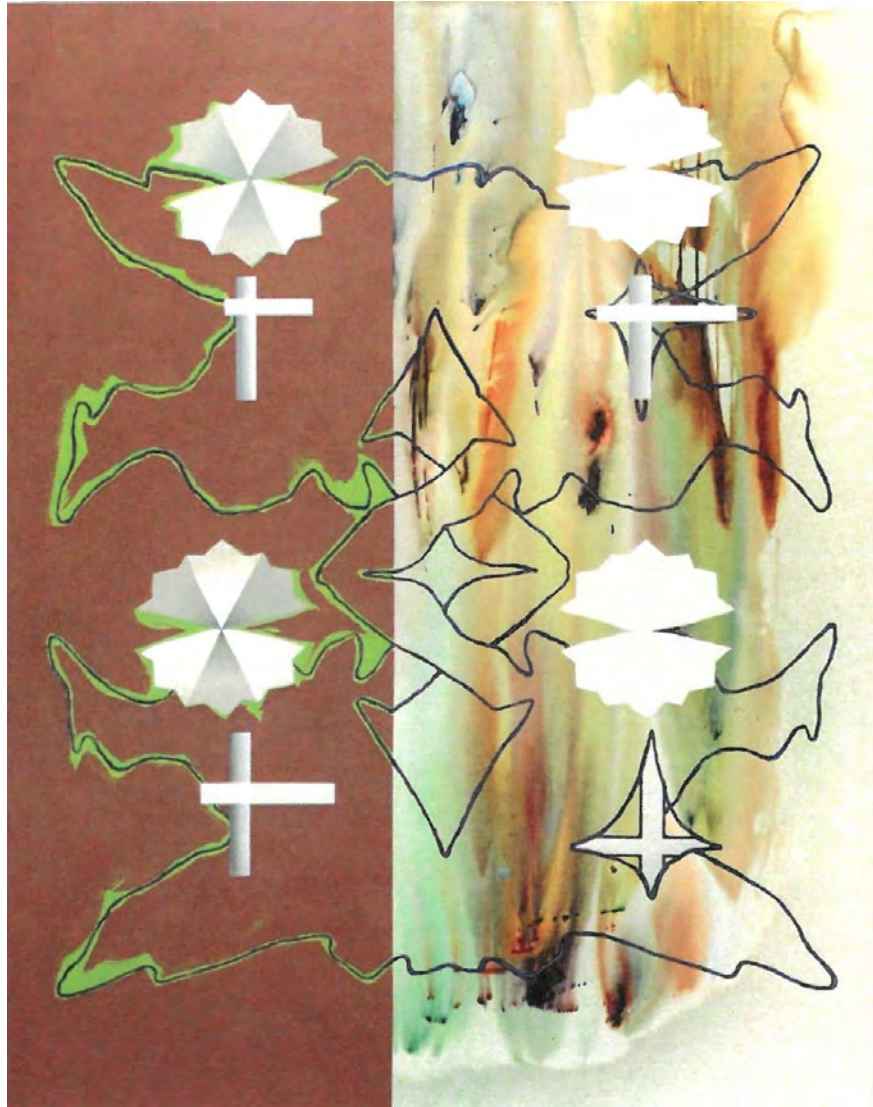
SOUSUKE UETA

頭部検査の一種であるMRAによって自身の脳の原子信号の変化と脳の血管を測定し、それらをモチーフとして扱った作品。

MRIは(輪切りされた)脳の断面図を映すものであるが、ここではMRAにおける自身の脳の血管と信号の流れをモチーフとし、その構造を基に絵具とペンを扱い描画している。

キャンバスにアクリル絵具、ペン、パネル

1713×1167mm



NO.03

バギーそれからホース

内田涼

RYO UCHIDA

それは四輪である。バグである。筒である。馬である。
花である。鼻である。クロスである。剣である。
これは賭けでもあり、手紙でもあり、絵の具でもあるとすると、
天神山で見たあの狐の左脚の怪我でもあるということ。

キャンバスにアクリル絵具

1120×1455mm



NO.04

桜夜風

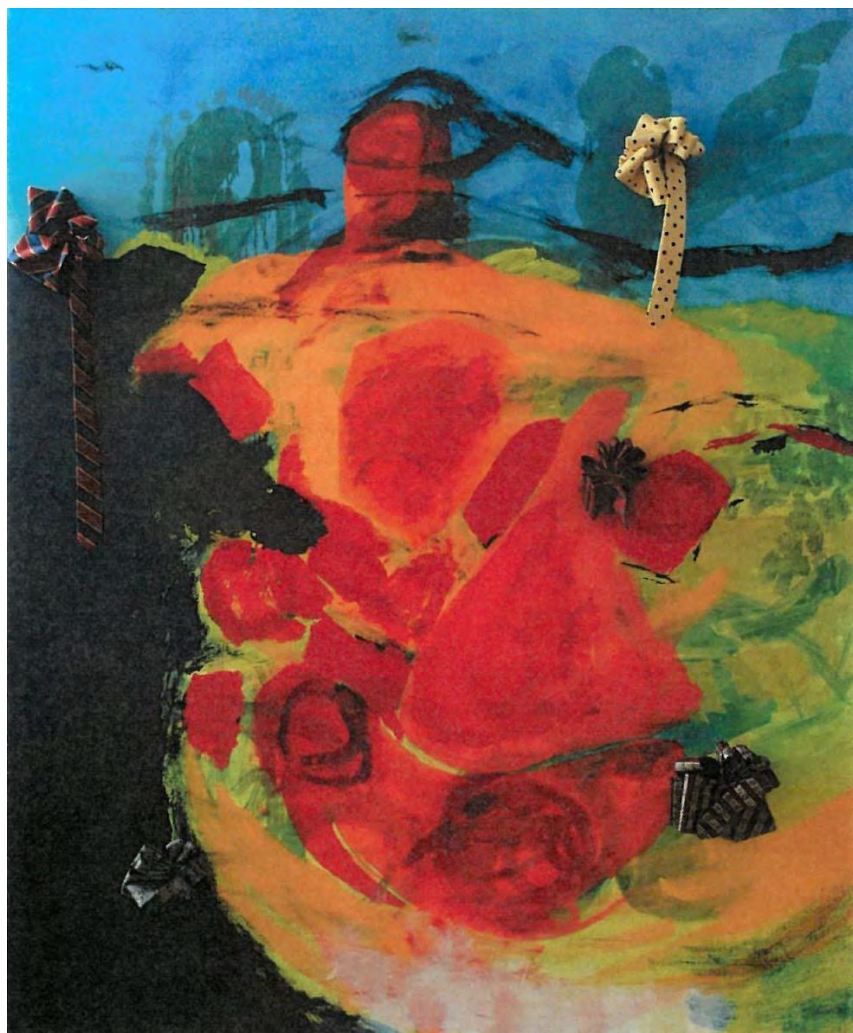
梅田 綾香

AYAKA UMEDA

河辺の桜を染料を泳がすなどして
自然の流れを再現するように制作しました

蠟染め 綿に反応性染料

1303×1620mm



NO.05

木の花

大久保 迪子

MICHIKO OKUBO

ネクタイはサラリーマンの象徴であり、男性洋装の代表的なイメージです。愛をテーマに描き始めた作品でしたが、最終的にネクタイを「花」や「リボン」とすることで、愛からサラリーマンへの皮肉へと変化しました。

キャンバスに油彩、ネクタイ

1620×1303mm

NO.06

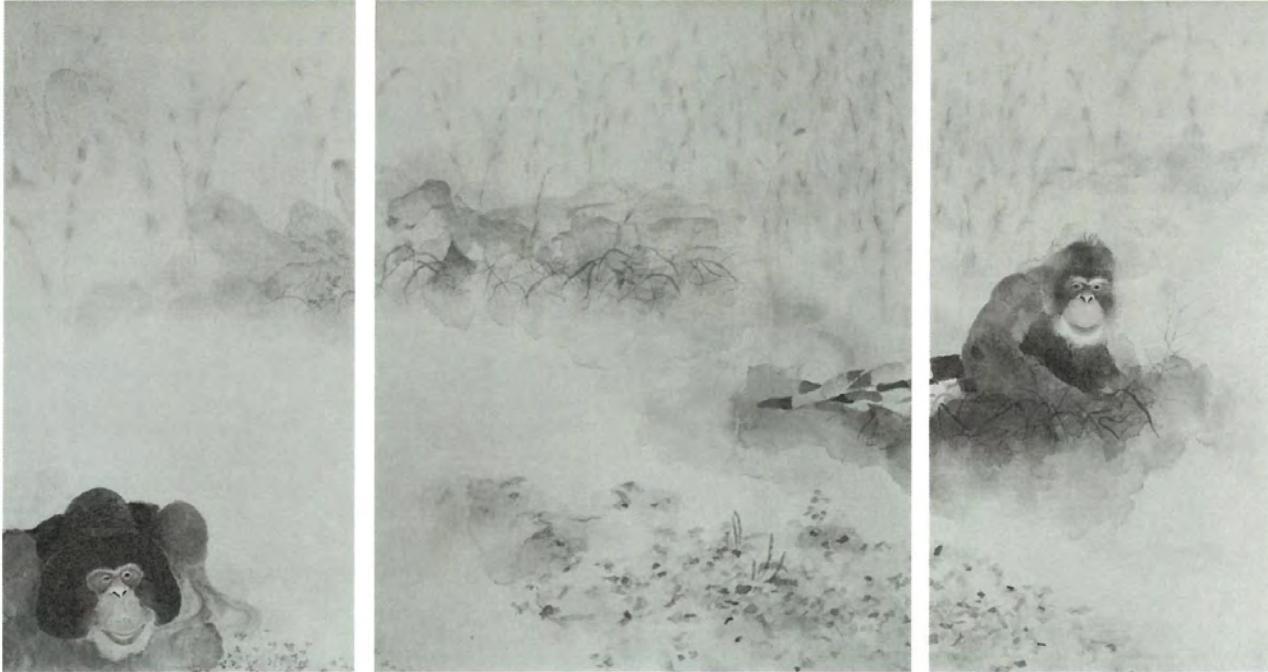
思い出

川田芙有
FU KAWATA

いしかわ動物園のオランウータン、雄のブロトスと雌のドーネ。2人は優しい子たちで、幸せそうに暮らしていた。残念ながらブロトスは天国に行ってしまったけど、これからもドーネと共に幸せであり続けてほしい。

土佐麻紙、薄美濃紙、墨

1900×3606mm(3枚1組)





NO.07

SPECTRUM WORLD

菊地 虹

KO KIKUCHI

分散光をテーマに、様々な文化を横断しながら、バラツキを絵画の平面上に等価値に扱う絵画を目指して制作した。日常のありふれたものを多様な見方で捉え直し、表現している。

キャンバス、アクリル絵具、紙、コルク、粘土紙

1818×2273mm

NO.08

gentle mind ～inspiration from the ocean～

キリコカ
KIRIKOKA



この絵は、心の中に映り込んだ心象風景を描いています。
勢いよく波が押し寄せてきた光景への記憶と共に、遠方を見ると、波が静かに波打ち、青と緑の海色は、様々な表情を見せ、優しい時間がそこには流れているように感じました。

この絵には詩もつけましたので、それがこの絵の説明にもなっております。

早朝、海に行くと、優しい光の中、
波がこちらに押し寄せてきて、
遠方では静かに波打つ様子を見ていると、
複雑に絡み合ってきた心を
スーッと溶かしてくれるような感覚を覚えた。
あとは、風に任せ、このまま前に進んでいこう。
きっと何か新しい世界がそこには広がっているはず。

キャンバスに油彩

1455×1121mm

NO.09

打ち上げ龍

斎藤 理絵

RIE SAITO

花火が大好きな龍です。喜び事があると手作りの花火玉を打ち上げてお祝いしてくれます。龍の体は ∞ (無限大)の形をしており、物事の終わりがさらに大きな発展への始まりへ繋がって行くことを表しています。

和紙に日本画

1120×1455mm





NO.10

街

桜井 旭

AKIRA SAKURAI

私の住んでいる街をモチーフに描きました。空や建物、人、車など様々なモノが有する時間の流れ方の違いに着目し、表現を試みました。

板、キャンバス、油彩

1940×1303mm



NO.11

Sunday morning

桜井 旭

AKIRA SAKURAI

気持ちの良い日曜日の午前中、車で出かけ、現場でこの絵を描いた。

キャンバス、油彩

1303×1620mm

NO.12

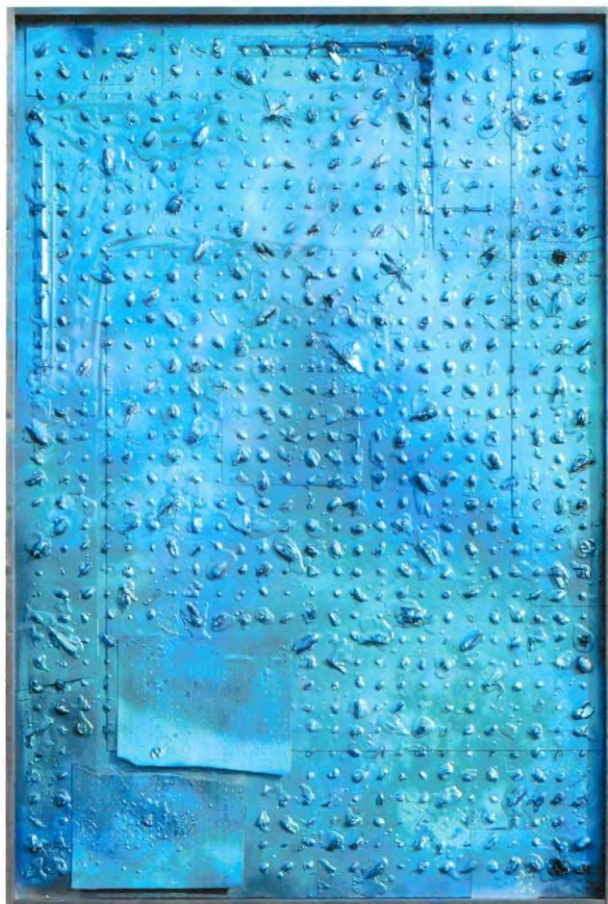
空間収集_世界

佐藤 隼
JUN SATO

私の作品は環境の中から小さな変化を丁寧に拾い集め、それを並べることで物語を作り出す。制作の大半は外を散策し、知らないところで様々なことが起きていることを想像している。
空間収集とは、世界の測り方である。

国産昆虫の死骸約1600頭、封入樹脂、偏光塗料、他

1940×1303、600×450mm(2点1組)





NO.13

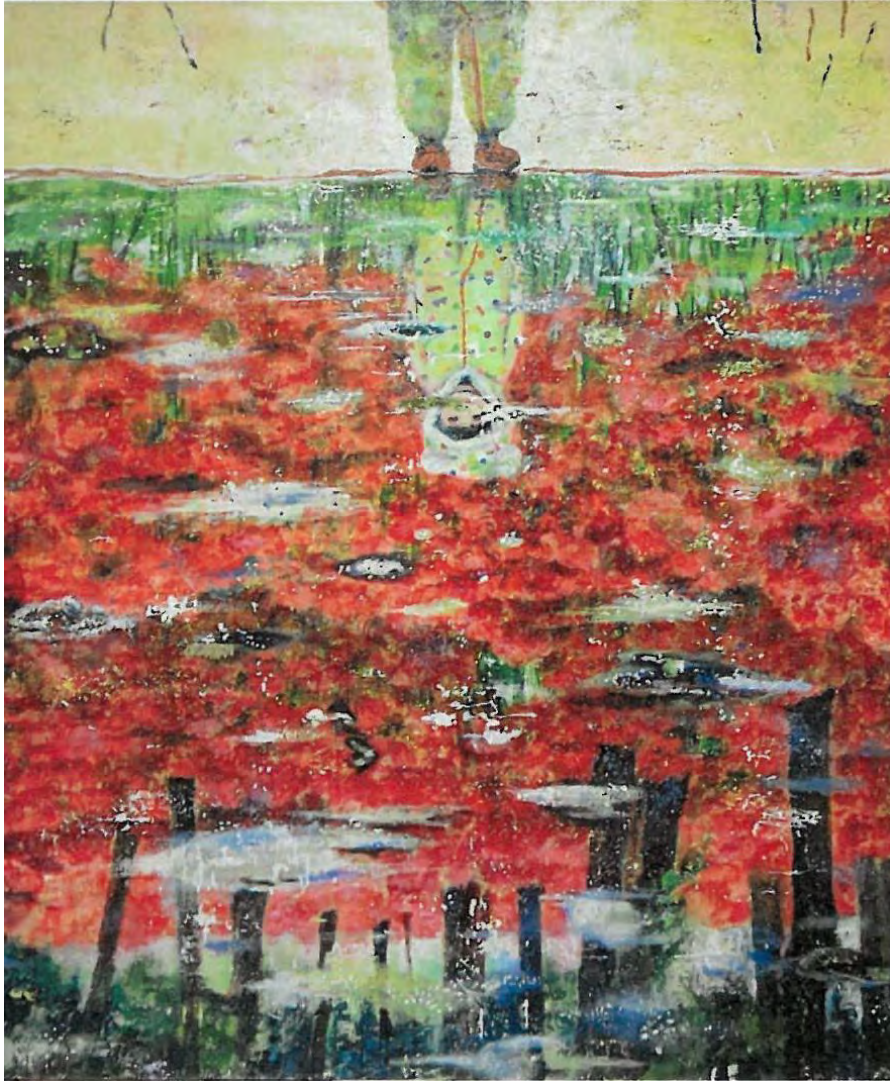
キミはこれから、どんな形にも
どんな色にもなれる。

佐藤 紘子
HIROKO SATO

小さなこどもは、これから、色々なものを吸収し、何者にでもなれる。自分の世界に初めて飛び込んでくる形や色を表現しています。そういったものの積み重ねで、成長し、これからどんな世界にでもしていけるという希望を込めた作品。

油彩、水性アキルド樹脂絵具、銀箔、キャンバス

1620×1303mm



NO.14

キミの足もとには、
世界が広がっている

佐藤 紘子
HIROKO SATO

小さなこどもは、無限の可能性を秘めていて、どんな世界にも飛び込んでいける。映った世界は、これからを生き抜く未来の積み重なった世界を映し出している。花は彼岸花のイメージで、それが、より強く生を意識させる。

油彩、水性アキルド樹脂絵具、金箔、銀箔、キャンバス

1620×1303mm



NO.15

しじまに想う

佐藤 碧

MIDORI SATO

糊の層を重ねていくこと、その上から染料を乗せるという行為は、私の感情と共通点があると感じる。ひとつの想いが生まれ、忘れては思い出す、感情というものは、波の満ち引きによって残された、砂浜のようだと思う。

タッサーリネンに手描き染め

900×1800mm



NO.16

Citrus V vol.2

彩蘭弥
Alaya

ブータンで見た、川にみかんを投げ入れる祭りから着想を得た作品シリーズの内一枚。清んだ川に沢山の魚が泳いでいて、周りのブータン人たちの民族衣装が煌びやかで、それらの印象を一枚の絵におさめています。

和紙に岩絵具、金箔、墨

1620×1620mm



NO.17

夜の呼鈴

竹内 まみ

MAMI TAKEUCHI

繰り返しの日々の中で1日がとても早く感じ、
気が付くと窓の外は夜。
1日の終わり、夜を告げる月に時間が
吸い込まれていく様を想像して制作しました。
繰り返す日々を連続する型を用いて表現しています。

綿、顔料、純金箔、パネル

1000×1167mm



NO.18

Secret Wetland

只野 彩佳

AYAKA TADANO

地図に道筋は載っていない秘密の湿地に行った体験から描きました。混沌に飲み込まれたような、どこかじっとりとしていて不思議な湿地の静けさと美しさを表現しています。見惚れていると帰れなくなるような景色です。

木製パネルに麻紙、岩絵具、銀箔、膠

1620×1620mm



NO.19

sw-549(A.O.R)

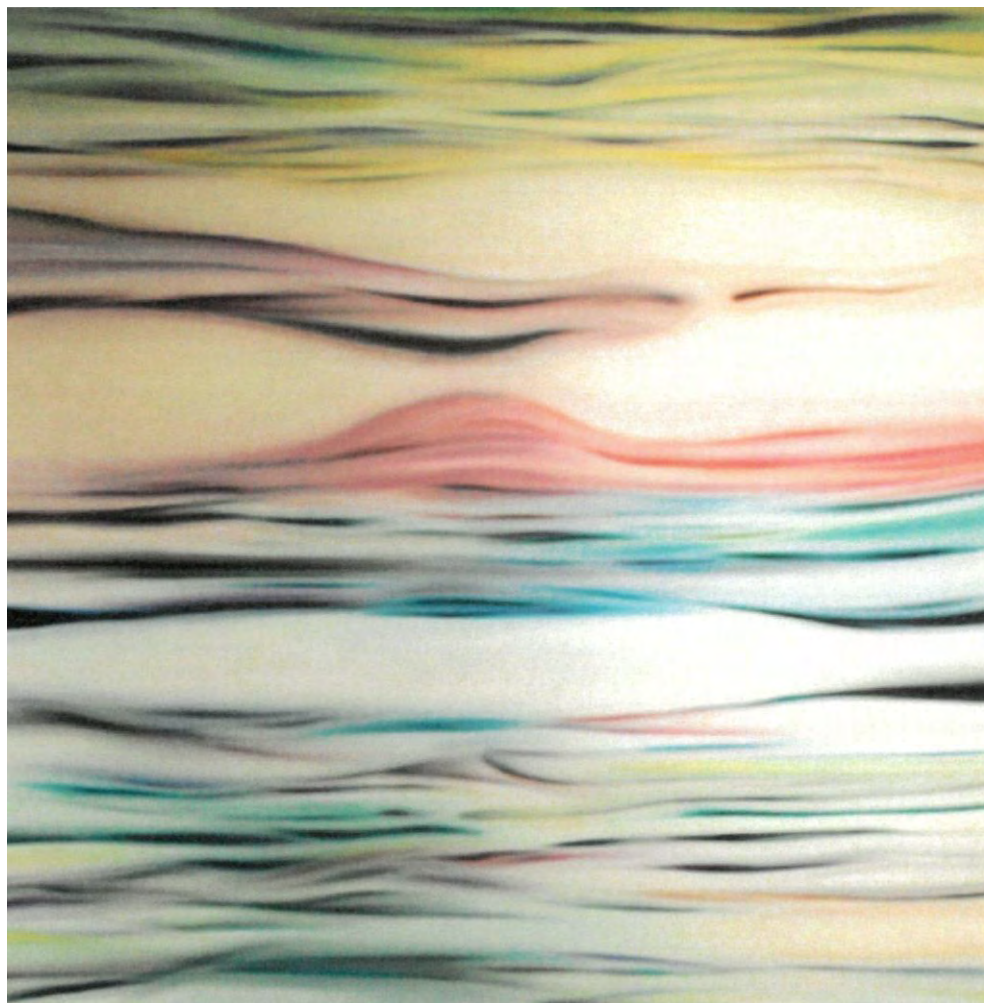
田中 幹

MOTOKI TANAKA

本作は「0」を集積することで描かれる。0は空位を示す記号で、日本語ではきわめて微細な存在を表す「零」となる。私の関心は、つねにこうした取るに足らない存在に対して傾けられている。

パネルに綿布、アクリル、スタンプ

2590×1940mm



NO.20

水平線

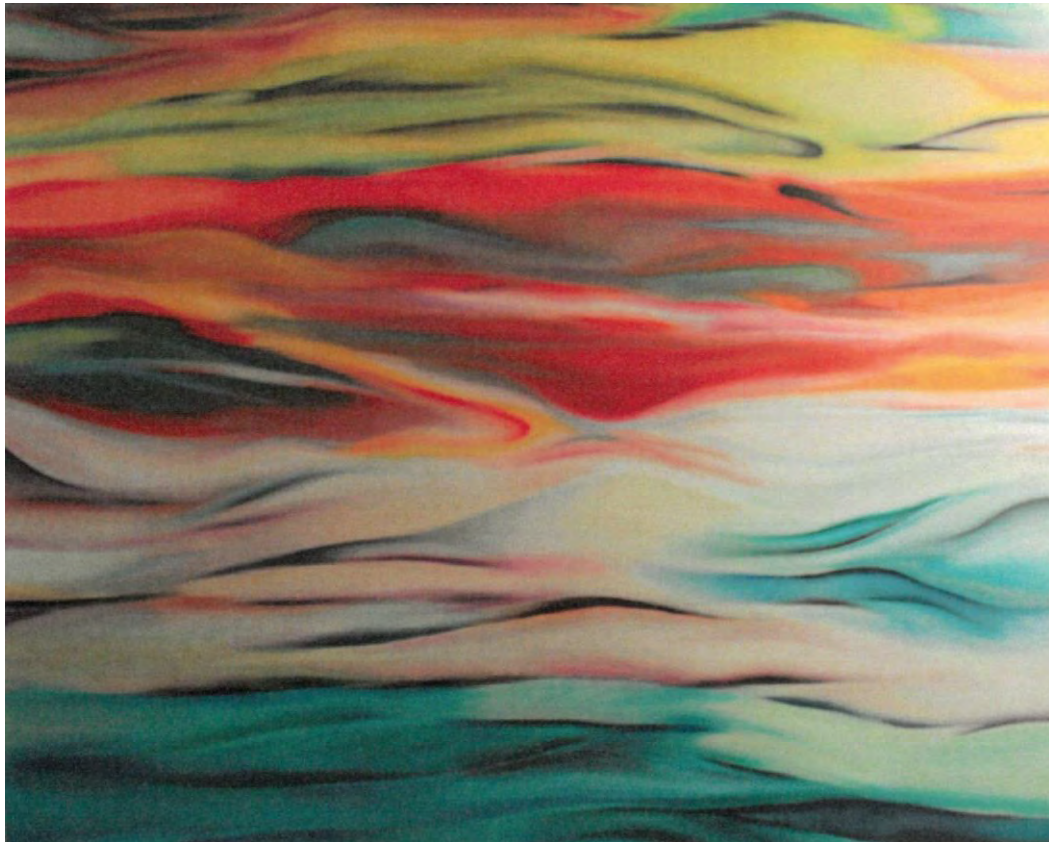
津田 翔一

SHOICHI TUDA

水平線を描いた。水平線はいくつも存在していて、しかも直線ではない。揺らぎの中で存在している世界と生命（力）をダイレクトに表現できるモチーフである。

キャンバスに油彩

1620×1620mm



NO.21

夕焼け

津田 翔一

SHOICHI TUDA

夕焼けを描いた。いくつも存在している水平線に、直線ではない揺らぎの中で存在している世界の向こう側に沈んでいく太陽は世界と生命（力）をダイレクトに表現できるモチーフである。

キャンバスに油彩

1303×1620mm



NO.22

蜘蛛の糸

都築 良恵

YOSHIE TSUZUKI

私達は、気の遠くなるような長い時間、
暗闇の中にいる気がする。
しかし、闇の強さは光の強さに従って在るもの。
そして、生きることは光を見続けること。
こんな時代にあっても、私達はまだ生きられる。
顔を上げられる。

紙本着彩

1303×1620mm

NO.23

夢を喰む

津留見 彩

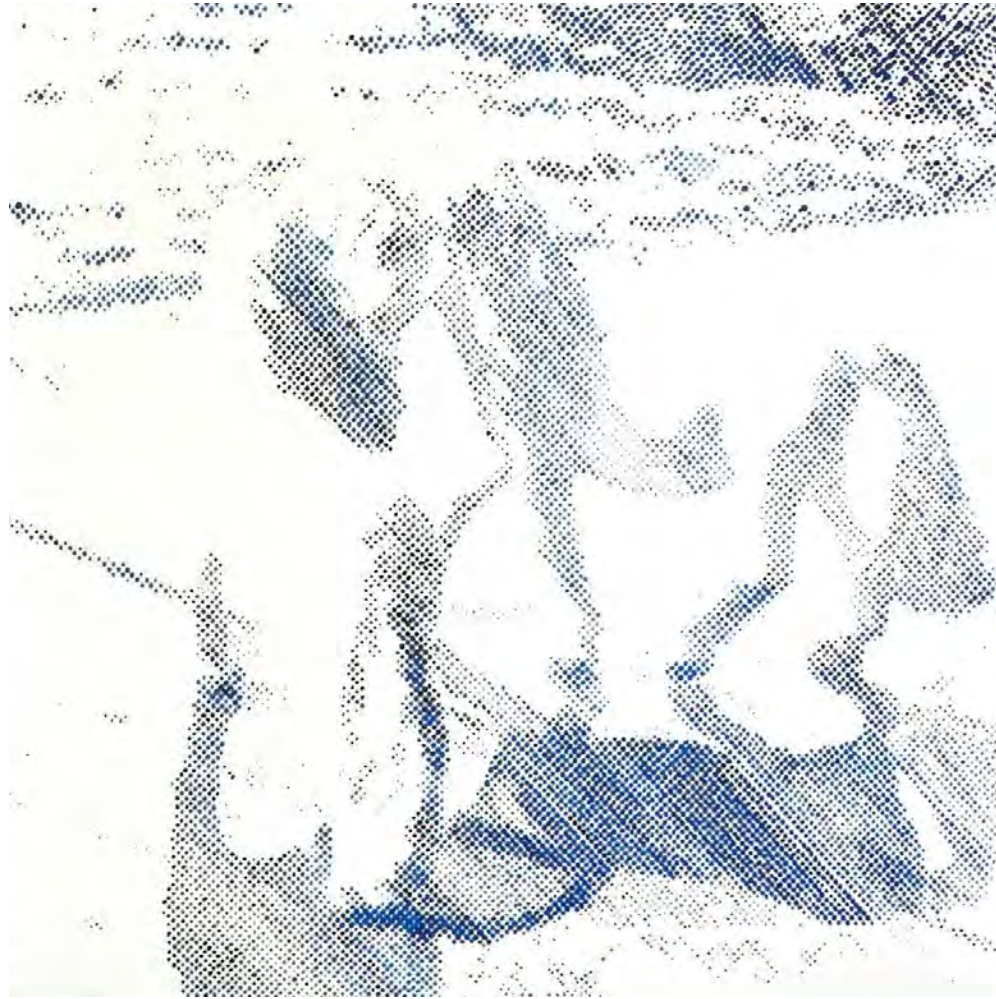
AYA TSURUMI

他人からの評価には敏感なくせに
毎秒ごとに自分が自分に向ける批判には気付き
もせず、喜劇を悲劇と演じ続ける劇中劇。
それは今日も大きく口を開けて"夢を喰む"

パネルに油彩、アクリル絵具、パステル、鉛筆

1303×1940mm





NO.24

airy

土井 紀子
KIKO DOI

宮島の栈橋で向かい合っている2頭の馬（そのうちの1頭は鏡像）が描かれています。輪郭線の存在しない作品に仕上げるため、全て細かいドットで表現しました。ドット1つ1つ、筆を使って丁寧に描きました。

キャンバスにアクリル絵具

1000×1000mm



NO.25

The Island of Silence Fiction

時任 海斗

KAITO TOKITO

黄金色の海に囲まれた、静かな島を描きました。旅先や日常で思いがけず出会った光景や瞬間が、忙しい日々の中でお守りのようにずっと寄り添う様に、この絵が誰かにとっての居場所になればと思っています。

キャンバスにアクリル絵具

1190×1190mm



NO.26

無重力の庭

時任 梨乃

RINO TOKITO

本作品に至る前に、2023年1月、ダンスとライブペイントと詩の朗読を融合させたパフォーマンスを公演しました（渋谷パルコ）。そこで得た、絵画の身体性、色と体から発せられるエネルギーを表現しました。

キャンバスにアクリル絵具、紙

1620×1620mm

NO.27

東京少女遊楽図

ネイネイ
NEINEI



グローバル化に焦点を当て、日本発カワイイ現象を歴史的・考現学的に研究し、カワイイの解体と再構築の可能性を提示することが制作のコンセプトである。自作である東京少女を通して既存の枠を超えて、新たなカワイイ・カルチャーの発信を挑戦していく。

キャンバス、アクリル、銀箔

1620×5212mm(1620×1303 4枚組)



NO.28

傘とリボン

橋本 健

KEN HASHIMOTO

父親の役割、母親の役割、人間の営みのあり方を
自分なりに解釈して描きました。

キャンバスに油彩

1620×1620mm



NO.29

都の空

橋本 健

KEN HASHIMOTO

ポーランドの古都、クラクフの風景を題材にしました。雨上がりの美しい時間を描きました。

キャンバスに油彩

1620×1303mm



NO.30

シャングリラ

水井 晴香

HARUKA MIZUI

タイトルは理想郷という意味を持つ言葉で、私達がいつかは成り果てる骨を中心に、様々な季節の花の咲く、実在しない時間を描きました。誰かの思いが標本のようにいつまでも残り続けますように。

麻紙に顔料、アクリル、箔

1155×1120mm



NO.31

Hidden parents

水野 智鶴

CHIZURU MIZUNO

当作品では時に教義を表す記号のように感じられる両親の姿を描いた。家族写真という強い意味を持った対象を石膏で型取られた手と網点によってその虚構性をあらわにする。

シルクスクリーン ユポ紙に水性インク

1682×1188mm

NO.32

酔龍

向條 英梨奈
ERINA MUKAIJO

大阪の心光寺ご本尊の前で描いたほろ酔いの緩みのある龍の水墨画作品です。中国から渡来した水墨画は万物の”気”を描くもの。不安に駆られる現代に対し、この作品でおおらかな極楽浄土世界の”気”を表現しました。

手漉き和紙、墨

1820×1167mm





NO.33

鱗 生成する安全保護具

山口 典子

NORIKO YAMAGUCHI

自分の恥ずかしいと思う気持ちと見てもらいたい欲求を同時に表現した作品です。鱗はプロテクターの役割に似ています。キャンバスは私の体を表現するため、体を形作る元である食品で使われる麻袋を使って作りました。

キャンバス、木枠、コーヒー袋、麻ひも、
ジェルメディウム、モデリングペースト

1600×1600mm

NO.34

ひとひらの記憶のなかで

横尾 真緋

MANAHI YOKOO



日頃から、彼岸と此岸、その境界について考えを巡らせている。そのイメージは、水と強く結びついている。遠くへ行ってしまった愛しい存在に思いを馳せるとき、私は雨の音をきく。

綿布、岩絵具、アルミ箔、和紙

1800×2560mm